

欧州におけるドイツ人 GK の起用率とその要因

スポーツビジネス研究領域

5016A006-1 伊藤 幹人

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 背景

ワールドカップでドイツは20大会中12大会3位以内に入賞しており最も好成績を残している国であり、ドイツの FIFA ランキング(2017/10)は1位である。また、5大リーグ(ブンデスリーガ、プレミアリーグ、リーガ・エスパニョーラ、セリエA、リーグ・アン)に所属するゴールキーパー(以下 GK)の自国籍 GK 割合を比較すると、ブンデスリーガ 72%と一番高い。また、ブンデスリーガはリーグランキング(出典 IFFHS)4位であり、自国籍 GK を起用し且つ高いリーグレベルを保っている。

UEFA 主催 Champions League (以下 CL) における優勝回数上位 5 チーム(55/56-16/17)の自国籍 GK の割合を出すと、ドイツ・ブンデスリーガ所属のバイエルン・ミュンヘン(以下バイエルン)は、優勝回数5回と3番目に多く、そして優勝時の GK は全員ドイツ国籍の GK である。他 4 チームと比較しても優勝時に自国籍 GK を起用した割合が最も高く、また他チームの優勝時においてもドイツ人 GK を起用したケースがあり、ドイツ人 GK が CL において優勝するような強豪チームにおいて多く起用されている。

筆者は、小学生から GK を始め、小中高とナショナルレベルに選出されてきた。その中で、憧れて目標にしてきたドイツ人 GK に一歩でも近づきたく大学在籍時に休学、渡独した。この中で、実際にドイツ人 GK のレベルの高さに触れるとともに、ドイツ人 GK は欧州においてどのようなポジションにいるのだろうと疑問に思った。

先行研究で、三澤(2013)はドイツ・ブンデスリーガにおけるユース育成の実態を経年比較によって明らかにしている。他にも GK の動作分析などバイオメカニクス研究が多く、欧州におけるドイツ人 GK の起用に焦点を当てた研究は存在しない。

2. 研究目的

本研究では、ドイツ人 GK が欧州において他国よりも高い割合で起用されている現状と要因を明らかにすることを目的とする。

する。

ドイツ国内の実態を見ることで日本にいる GK の将来像を考慮する上で参考になるのではないかとという点で研究意義はあると考える。

3. 研究手法

本研究の目的を達成するために文献調査し、そしてドイツ国内の GK に関する実態を調査するために、ドイツの GK 事情に詳しい2名にインタビュー調査を行う。

(1) 欧州におけるドイツ人 GK の起用率

欧州内の比較のために、5大リーグ所属チームの CL ベスト 16 チームにおける先発 GK の国籍を調査する。加えて、CL ベスト 16 の国毎チーム数を調査する。そして、自国籍 GK 数と国籍とそのチームが所属するリーグがある国のチーム数の比率を算出し、これを自国籍 GK レシオ(以下レシオ)とする。

また、ワールドカップとの関係を見るために 4 年毎に括り、推移をグラフ化し、ワールドカップ成績と比較する。

(2) 5大リーグ MVP 比較

各国リーグの年間最優秀選手における GK の人数及び割合を算出する。

(3) インタビュー調査

対象者は、ドイツ国内の GK に関する実態を調査するために、ドイツと日本で GK コーチの経験があり、コーチとしての経験が豊富な落合貴嗣氏とドイツで選手としての経験があり、現在 J1 チームで GK コーチをやっている松本拓也氏に両者の立場に合わせインタビューを行った。

4. 結果

(1) 自国籍 GK レシオ

図1では、ドイツのみ全期間において1以上と、安定した数値であった。これは安定してドイツ人 GK が CL ベスト 16 で起用されていることになる。また、ワールドカップ成績とレシオとの間で関連性はなく、世界最大であるサッカーの大会におい

て好成績を残しても、残さなくてもレシオに大きな影響を与えなかった。

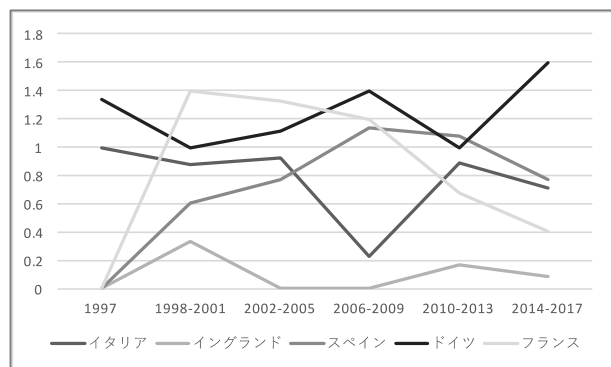


図 1 自国籍自国籍 GK レシオ

(2) ヨーロッパ 5 大リーグの MVP

ドイツ・ブンデスリーガにおいて、約 19%の割合で GK が MVP に選出されており、他 4 ヶ国と比較して最も GK が MVP に選ばれているリーグということになる。

(3) インタビュー調査

ドイツには、芝で容易にサッカーができ、GK トレーニングメニューが豊富で、楽しいメニューも多く GK をやりたいと思える環境がある。そのメニューの中には、手ではなく足でシュートを止めるトレーニングがあり、ほとんどのチームが取り入れている。それはカーンなどのロールモデルになるような選手が行っているからという理由ではなく、あるシーンにおいて足の方が素早く出せるというしっかりとした理由がある。さらに、ドイツには憧れになるような選手が時代に偏らず常に存在している。このように、ロールモデルとなるような選手が身近に存在しており、目指すべきところがあるのは育成面において重要なことである。

5. 考察

(1) ドイツ人 GK の起用率と現状

ドイツ人 GK が他国よりも CL ベスト 16 において起用され、国内リーグにおいて他国よりも高い比率で GK が MVP に選出されており、ドイツでは GK に注目が行くと推測される。つまり、ロールモデルが明確になり、目指す上でのモチベーションが生まれると考えられる。

(2) 技術的特徴

インタビューから、ドイツはカーンやノイヤーに代表される足でのシュートストップという新しい技術を取り入れ、確立していると言える。これは、近時におけるノイヤーのディフェンダーの背後のスペースを埋めるような戦術も同様であると言えるのではないだろうか。

このように、従来では確立されていないものを確立するような動きが今のドイツ人 GK の欧州における起用率の高さに繋がっているのではないだろうか。

また、これらの知識や技術を継承する上で GK コーチの存在がある。選手として国際大会で優勝経歴のある GK がドイツ代表 GK コーチになり、優勝に導いており、国際大会で優勝した経験がないと伝えられないものと推察される。

DFB(ドイツサッカー協会)の取り組みも一役買っている。タレント育成プログラムや動画配信などの取り組み、2011 年からの GK コーチライセンスの導入で基準を設け、経験だけでは補えない GK コーチに必要な知識や技術などを教育し、素晴らしい経歴を持つ GK コーチ以外の GK コーチのレベルアップも図っている。

6. 結論

自国籍 GK レシオから、欧州においてドイツ人 GK が他国よりも高い割合で起用されている現状が明らかになった。その要因として、MVP の選出、ロールモデルの存在、楽しい練習メニューの豊富さで、GK をやりたいと思える環境があること、足でのシュートストップやディフェンダーの背後のスペースを埋める戦術のような従来では存在しなかった GK の技術を取り入れ進化し続けようとする試み、ドイツサッカー協会としての取り組みが合わさり、ドイツ人 GK のレベルアップに貢献し、起用率に影響を与えていると示唆された。